

日本語における慣用句の逸脱使用がもつ言語機能： 形容詞の反義語への置き換えを手がかりに

著者	鈴木 あすみ
雑誌名	言語資源活用ワークショップ発表論文集
巻	3
ページ	105-111
発行年	2018
URL	http://doi.org/10.15084/00001642

日本語における慣用句の逸脱使用がもつ言語機能 —形容詞の反義語への置き換えを手がかりに—

鈴木 あすみ (東北大学文学研究科) †

Linguistic functions of deviated use of Japanese idioms: focusing on antonyms substitution for the adjective

Asumi Suzuki (Tohoku University)

要旨

「食が細い」という慣用句に対して「食が太い」のような言い方は一般に認められないが、文学作品や広告などにおいて言葉遊びとして用いられることがある。本稿では『国語研日本語ウェブコーパス (NWJC)』を用いた調査から、こうした逸脱的な言い回しが特殊な修辭的技巧をもたない人々にも多く用いられることを示し、その対人的機能について考察する。

1. はじめに

1.1 慣用句の固定性と可変性

慣用句は一般に固定性が高く、語彙的柔軟性を欠くとされている (Liu, 2008; 宮地, 1982)。慣用句に含まれる語をその反義語に置き換えると、慣用句として認められないものになる場合が多い。例えば「厚い」と「薄い」は反義関係にあるが、(1a) に対して (1b) は慣用句として成立せず (西尾, 1985)、慣用句辞書等への掲載も見られない。

- (1) a. つらの皮が厚い
b. *つらの皮がうすい

(西尾, 1985)

しかし、このような句は慣用句とは認められずとも、いわゆる「言葉遊び」としての使用・理解は可能である。(2) の下線部 a, b に示す三浦梅園の言葉は倫理的な学問観を戯画的・風刺的に表現し、学者にありがちな学識の見せびらかしを指摘するものである (木村, 1973)。

- (2) 学問は飯と心得べし。腹にあくの為なり。かけ物などのように人に見せんずる為にはあらず。衣装うつくしくかざり、人に好かれんとするは売女なり。人の見る時躰をなし、人に褒められんとするは歌舞伎ものなり。今の学者はどうやらこの真似するようなり。
a. 足の皮はあつきがよし。 b. つらの皮はうすきがよし。人もろともに小ざかしく口はきけど行いは女童に見限らる。さるゆえ面の皮あつくなり、足の皮うすくなり、株ふむこと多し。よく心得てつつしむべし。

(三浦梅園『戯示学徒』, 成立年代不明)

鈴木 (2018) では『国語研日本語ウェブコーパス (NWJC)』を用いた調査から、慣用句に含まれる形容詞をその反義語に置き換える用法が実際には多く用いられていることを確認した。(3)、(4) はそれぞれよく知られている慣用句「食が細い」「息が長い」の「細い」「長

† asumi.suzuki1028@gmail.com

い」をその反義語に置き換えた句の用例である。

- (3) でも以外と食が太く、モリモリ食べて育ってくれました

【出典】 <http://44555.blog119.fc2.com/blog-entry-91.html>

- (4) また、割と長く持つキーワードと、旬と言うか流行の息の短いキーワードを選ぶかでも対応が変わってきます。

【出典】 <http://affirikouryaku.blog104.fc2.com/blog-date-201001.html>, <http://affirikouryaku.blog104.fc2.com/blog-category-8.html>

1.2 慣用表現およびその変形がもつ機能

イディオムをはじめ、複数の語から成る慣用的な表現は *phraseological units (PU)* と呼ばれる。Fiedler (2007) によると、PUは装飾的な機能のみでなく、テキストを構成するために重要な機能を果たしており、比喩的な意味を持つPUは字義通りの意味と併せて洒落を作るために用いられることもある。また、PUにはテキストの中心となってその結束性を高める働きもある (Safina et al., 2015)。

PUには固定的な性質があり、最も典型的な実現形として規準形をもつ (Philip, 2008)。しかし、変形を全く許容しないというわけではなく、修飾語など規準形には無い要素を挿入する (*extension*)、構成要素の一部を省略する (*ellipsis*)、構成要素の一部を他の語に置き換える (*substitution*) などといった変形操作を伴って用いられることもある (Partington, 1996; Safina et al., 2015)。Safina et al. (2015) は雑誌と新聞に基づいた調査から、書き手がPUを変形して用いるのは文章の表現力を高めるためであると指摘している。Safina et al. (2015) によると、PUを変形する用法にはテキストに分析 (*analytism*) や個人的な評価、芸術的描写、皮肉を付け加える機能がある。

1.3 本稿の目的

前節までに挙げたものを含め、PUの機能に関する先行研究には雑誌や新聞、文学作品、広告などの用例に基づくものが多い。これらは記者やコピーライターなど、高度な修辞技巧を身に付けた人々によるテキストである。しかし、PUの変異形はより日常的な言語使用の中にも現れうる。本稿では『国語研日本語ウェブコーパス (NWJC)』を用いた調査を行い、

①慣用句の逸脱使用はどのような人々がどのような場面で用いるのか

②慣用句の逸脱使用はどのような言語機能をもっているのか

の2点を明らかにすることを目的としている。ブログや掲示板、Q&Aサイトといったウェブテキストには、

- ・書き手の多くは特殊な修辞技巧を身に付けた人々ではない

- ・談話が1人の書き手で完結せず、複数人が相互に書き手/受け手になり得る¹

という特徴がある。このような性質をもつウェブテキストに基づく分析は、PUおよびその変異形がもつ対人的な言語機能を明らかにすることにつながる。

¹ 例えば、ブログ本文に対してはコメント、質問に対しては回答、掲示板の書き込みに対してはレスポンスが寄せられることがある。このような場合、それぞれの書き手は異なるのが普通である。

2. 調査

2.1 調査方法

本稿では慣用句の一部を反義語に置き換えることで作られる、一般に慣用句とは認められない用法を手がかりに PU の変異形がもつ機能について検討する。どのようなウェブサイトで用いられているか、談話の中でどのように用いられているかという点に着目し、鈴木 (2018) のデータを再分析した。次節にデータ獲得の手順を示す。

2.2 調査対象とコーパスからの用例抽出

予備調査として、まずは形容詞を中心とする慣用句の中で最も典型的な「名詞+が+形容詞」(西尾, 1985) を辞書形にもつものを現代言語研究会 (2007)、丹野 (1998)、米川・大谷 (2005) の 3 冊の日本語慣用句辞書から目視で抽出した。それらのうち、反義関係にある形容詞の片方だけが慣用句として用いられる句 (例: 食が細い/*太い) について、「*食が太い」のように辞書に掲載が無い方の句 14 種の用例を『国語研日本語ウェブコーパス (NWJC)』から抽出した。検索条件は形容詞をキーとし、その前方 3 語以内に慣用句に含まれる名詞 (例: 食) が共起する例を収集した。検索結果総数が 300 を超える場合は全検索結果の中からランダムで抽出した 300 例、それ以下であれば全検索結果を予備調査の範囲 (表 1「分析例」) とした。こうして設定した範囲の中から慣用句的な意味での用例のみを目視で拾い、その粗頻度 (表 1「うち慣用句的用法」) および分析例に対する比率 (表 1「慣用句的用法比率」) の高いものを本調査の対象として選んだ。「頭が柔らかい (考え方が柔軟な様子)」「息が短い (長続きしない様子)」「腰が軽い (気軽に行動を起こす様子)」「食が太い (たくさん食べる体質)」「神経が細い (些細なことでも気にしてしまう性質)」「造詣が浅い (知識が乏しい様子)」である (表 1 星印)。

表 1 予備調査結果

調査対象	検索結果総数	分析例	慣用句的用法		対象
			うち 慣用句的用法	比率 (%)	
造詣が浅い	80	80	80	100.00	★
頭が柔らかい	2,319	300	284	94.67	★
食が太い	162	162	145	89.51	★
神経が細い	447	300	246	82.00	★
面の皮が薄い	20	20	14	70.00	
息が短い	142	142	93	65.49	★
態度が小さい	69	69	43	62.32	
腰が軽い	997	300	124	41.33	★
血の気が少ない	38	38	15	39.47	
影が濃い	1,142	300	108	36.00	
足が軽い	2,566	300	9	3.00	
心臓が弱い	2,212	300	7	2.33	
気が少ない	289	289	0	0.00	
耳が近い	223	223	0	0.00	

これら 6 つの句について、「太い食」のようにキーと共起語の順序が逆になる用例も同様

に抽出した。検索結果は全て目視で確認して調査対象に該当しない例²を取り除き、最終的に表 2 に示す数の用例を得た。

表 2 NWJC の検索結果における各調査対象の用例数

	頭が 柔らかい	神経が 細い	腰が 軽い	食が 太い	息が 短い	造詣が 浅い	合計
用例総数	4,017	414	377	145	87	72	5,112

2.3 調査

まず「①慣用句の逸脱使用はどのような人々がどのような場面で用いるのか」を明らかにするため、調査対象の句がどのようなウェブサイトで用いられているか、そのレジスターを調査した。レジスターの分類はブログ、掲示板、ニュース、ネット小説などいくつかを思いつく範囲で設定し、それに当てはまらないものが出現した場合は適宜追加した。同様に「②慣用句の逸脱使用はどのような言語機能をもっているのか」についても示唆を得るため、調査対象の句が談話の中でどう用いられているかについて調査した。これらの 2 点についてはいずれも得られた全用例のうち URL が有効なもの元サイトをたどり、目視で調査した。

3. 結果

3.1 調査対象の句が現れるレジスター

調査対象とした表現は様々な種類のウェブサイトで確認された (表 3)。特に多いのはブログ、Q&A サイト、掲示板などである。「その他」にまとめたものの中にはネットニュースやメールマガジン、ツイート、会話の書き起こし、行政のサイトなどが含まれる。このようなサイトに見られるテキストの書き手はほとんどが文章の専門家ではなく、取り扱うテーマも日常的なものが多い。

表 3 調査対象の句が用いられるウェブサイトのレジスター

	頭が 柔らかい	神経が 細い	腰が 軽い	食が 太い	息が 短い	造詣が 浅い	合計
ブログ (個人)	2,510	265	263	109	53	51	3,251
ブログ (団体)	105	3	8	2	1	1	120
Q&A サイト	200	19	11	6	4	0	240
掲示板	172	24	9	0	8	3	216
企業サイト	31	1	1	0	0	0	33
ネット小説	17	18	4	3	0	0	42
投稿記事	23	0	3	0	1	1	28
その他	159	6	19	3	8	1	196
合計 ³	3,217	336	318	123	75	57	4,126

² 検索条件に一致しても慣用句的な表現でない例も存在する。「この、うどんという日本の国民食、太い麺、強いコシ、胃の中で膨張する」(出典：http://tnc.typepad.jp/main/2006/01/post_ec55.html) などである。

³ 検索結果のうち URL の有効なもののみを調査対象としたため、表 2 と表 3 では合計数が異なる。

3. 2 調査対象の句の用法

調査対象の句には比喩的な意味と文字通りの意味があり、これらをかけて洒落を作る用例 (5) が見られた。また、元の慣用句と対比させることで洒落を作る用例 (6) も確認された。これらを合わせ、洒落を作る用法は全部で 35 例確認された (表 4)。

- (5) この、どーでもいい話ができる時間ってとても大切。

ヘッドマッサージより頭が柔らかくなるのです

【出典】 <http://kekeblog.seesaa.net/article/156066477.html>

- (6) ぎゃははは〜〜〜！嫁太。500円そこそこで痩せようとするその神経のほうが図太いで〜〜！先にその神経を細くしたほうがええのとちやうか〜〜！ぎゃははは〜〜〜！！

【出典】 http://estrella-zrx.cocolog-nifty.com/blog/2008/03/post_195a.html

気の利いた表現・ウィットに富んだ表現を作る用例 (7) も見られた。このような用法は数が少なく、書き手も修辭的な文章に慣れ親しんでいると思われる⁴。(7) では「息」を含む慣用句とその変異形がいくつも用いられており、テキストにおいて中心的な役割を果たしている。

- (7) 「新国訳大蔵経」という息の長い媒体と「朝日新聞」という息の短い媒体を舞台にしての論争というのは、それこそ息が合いそうにありません

【出典】 <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/kiraya/news0902.html>

また、ブログやQ&Aサイト、掲示板などで複数の書き手が談話に参加している場合には、書き手Aの発話に含まれる慣用句を受けて書き手Bが対義語への置き換えがなされた句を用いる例が確認された。(8) ではブログに寄せられたコメント(a)に対して本文の書き手からコメントが返されており、(9) では掲示板への書き込み(a)に対して他者からレスポンス(b)が寄せられている。また、書き手Aの発話に対義語への置き換えがなされた句が含まれており、それを受けて書き手Bが元の慣用句を用いる例も確認された(10)。このように対話の中で反義語への置き換えが用いられる例は49例確認された(表4)。

- (8) a. 今年こそ重い腰あげて採寸しようかな

b. いやいや、腰が軽い時で(笑)

【出典】 <http://pochiat.blog.fc2.com/blog-entry-845.html>

- (9) a. 何百人って人間が見てる中であんな戦い方が出来る図太い神経には呆れた

b. >>125 お前の神経か細過ぎワロタ

【出典】 <http://ff.doorblog.jp/archives/50285859.html>

- (10) a. 中学生になってもまだまだごんたまちゃんの頭は柔らかいのね

b. けどこういう発想って いつの間にか

なくなっちゃって 頭が固くなってるんですね〜

【出典】 <http://sutekinakaisheru.blog75.fc2.com/blog-entry-323.html>

⁴ (6) は古書店のウェブサイトからの用例である。

表4 調査対象ごとの洒落および対話における用例数

	頭が 柔らかい	神経が 細い	腰が 軽い	食が 太い	息が 短い	造詣が 浅い	合計
洒落	20	4	10	1	0	0	35
対話	27	4	6	9	2	1	49
合計	47	8	16	10	2	1	84

4. 考察

調査の結果から、慣用句に含まれる語を反義語に置き換える用法は特殊な修辞技巧をもたない人々にも日常的に用いられていることが明らかになった。このような表現がもつ機能としては、以下のようなものが考えられる。

①洒落や気の利いた文をつくる機能

修辞的な表現に慣れ親しんだ書き手による技巧的な例 (7) のみならず、変形前の慣用句や文字通りの意味とかけて洒落を作り出す用例 (5, 6) が確認された。この用法はブログなど日常性の高いテキストの中にも現れるものである。これらはいわゆる「上手い事を言う」言い回しであり、表現そのものを際立たせたり、受け手の注意を引いたりする働きがあると考えられる。

②談話参与者間の相互的な機能

ブログや掲示板、Q&A サイトなどにおいて複数の書き手が談話に参加している場合、他者の発言に含まれる元の慣用句を受けて、反義語への置き換えが用いられる例 (8, 9) やその逆 (10) が確認された。このような場合、PU およびその変異形は表現そのものを際立たせて受け手の注意を引く機能の他に、自分が相手の話をきちんと読んでいることを確認する働きも担っていると考えられる。

以上のことから、既存の慣用表現の一部を変形して創り出された新奇な言い回しは、詩的機能や交話的機能 (ヤコブソン, 1984) を担っていることが示唆される。こうした言葉遊び的な用法は狭義の「伝達」ではなく、書き手と受け手の関係構築に主眼を置く言語表現である。

5. おわりに

書籍や新聞、雑誌等は修辞的な文章を書くのに慣れた人々の産出したテキストであり、書き手から受け手に向けて一方向的な伝達が行われることがほとんどである。これに対して、ウェブテキストには様々なレジスターがあり、書き手の属性も多種多様である。中でもブログや掲示板、Q&A サイトなどでは、書き言葉でありながらも複数の参与者による双方向的な対話が行われている場合が多い。今後も一般的な母語話者の日常的なコミュニケーションにおける PU の用法・機能の解明に向け、大規模ウェブコーパスの活用が進むことが期待される。今後は語の置き換え以外の様々な変形も含め調査を進めたい。

文 献

Sabine Fiedler (2007) *English Phraseology: A Coursebook*. Tübingen: Gunter Narr Verlag.

- ロマン・ヤコブソン (1984) 『言語とメタ言語』 (池上嘉彦、山中桂一訳) 東京：勁草書房。
- 現代言語研究会 (2007) 『日本語を使いさばく 慣用句の辞典』 東京：あすとろ出版。
- 木村俊夫 (1973) 「三浦梅園の学問観と方法論」『茨城大学教育学部紀要』 23, 189-196.
- 国立国語研究所コーパス開発センター編 (2017) 『国語研日本語ウェブコーパス』 (2014-4Q データ, 梵天バージョン 1.0.0). <https://bonten.ninjal.ac.jp/>, (2018年6月20日確認)
- Dilin Liu (2008) *Idioms: description, comprehension, acquisition, and pedagogy*. New York: Routledge.
- 宮地裕 (1982) 『慣用句の意味と用法』 東京：明治書院。
- 西尾寅弥 (1985) 「形容詞慣用句」『日本語学』 4 (1), 45-53.
- Alan Partington (1998) *Patterns and meanings: using corpora for English language research and teaching*. Amsterdam; Philadelphia: J. Benjamins Pub.
- Gill Philip (2008) Reassessing the canon: ‘Fixed’ phrases in general reference corpora. In Sylviane Granger and Fanny Meunier (eds.) *Phraseology: An interdisciplinary perspective*, 95-108, Amsterdam; Philadelphia: J. Benjamins Pub.
- Rimma A. Safina, Elena V. Varlamova & Elena A. Tulusina (2015) The Stylistic Potential of the Contextual Usage of Phraseological Units as Hybrid Formations, *Asian Social Science*, 11:19, pp. 64-69.
- 鈴木あすみ (2018) 「日本語における慣用句の自由度について—形容詞の反義語を手がかりに—」 東北大学大学院文学研究科修士論文 (未公開)
- 丹野顯 (1998) 『意味から引ける慣用句辞典』 東京：日本実業出版社。
- 米川明彦、大谷伊都子 (2005) 『日本語慣用句辞典』 東京：東京堂出版。

関連 URL

『国語研日本語ウェブコーパス』 検索系『梵天』 <http://bonten.ninjal.ac.jp/>